

横断的組織が取り組む マネーフォワード クラウドの アクセシビリティ向上

株式会社マネーフォワード
清川 太雅



2024年8月9日

JaSST '24 Niigata 事例発表1

清川 太雅

株式会社マネーフォワード
マネーフォワードビジネスカンパニー
MFBC-CTO室
フロントエンド推進グループ リーダー



X / GitHub:
@taigakiyokawa

- まとめ
- 背景の説明
 - マネーフォワード クラウドについて
 - フロントエンド推進グループについて
- 取り組みの紹介
 - アクセシビリティガイドラインの作成・整備
 - アクセシビリティ委員会の活動
 - 共通UIライブラリの開発
- まとめ

- マネーフォワード クラウドのクラウドのクラウドの開発では、フロントエンドに関する横断的な課題に取り組むチームがアクセシビリティの向上に責務を持って取り組んでいる
- 現在はWCAG 2.2 Level Aに基づくガイドラインを作成し、実際にクラウドのアクセシビリティを改善していくプロセスの検証中（上手くいっていないので立て直し中）
- 一方でデザイン組織や海外拠点と協力して共通UIライブラリの開発も進めており、製品群の一貫性や併用体験の向上と共に一定のアクセシビリティの向上も目指している

背景の説明



マネーフォワード クラウドについて

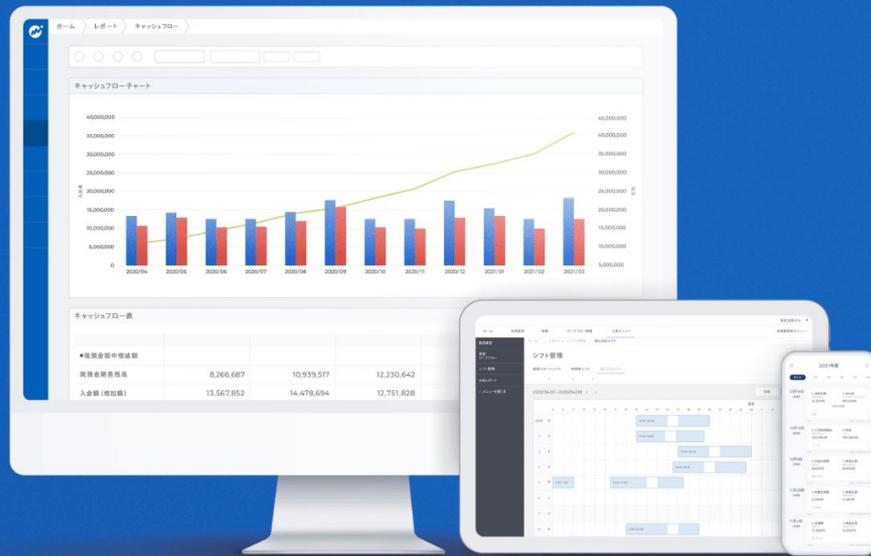
経理・人事労務などバックオフィスのあらゆる課題解決をサポートする製品シリーズの
総称

 Money Forward クラウド

法人・個人事業主向け

その悩み、
クラウドなら
うまくいく

 さらに詳しく



- 内部的には現在30を超えるプロダクトが存在している
 - 会計、経費、給与、勤怠、人事管理、etc.
- 各プロダクトの連携や組み合わせによるコンポーネント型ERPが魅力のひとつ

今までの開発スタイル

- 3～5名からなるスモールチーム
- 裁量を大きく与えて、意思決定のスピードを高める

- プロダクトごとにUIの見た目や振る舞いがバラバラ
- 技術スタックもバラバラ (Rails, React, Vue)
- 横串の知見やノウハウの共有が進んでいない
- etc.

フロントエンド推進グループについて

マネーフォワード クラウドのフロントエンド開発における組織横断的な課題に

取り組むチーム

- 当初は『チームトポロジー』でいうenablingチーム的な役割を想定
 - 各プロダクトへ直接支援に入ったり
 - (ほぼ)全プロダクトのチームにヒアリングして課題を集めたり

- 共通UIライブラリ(後述)の開発・運用
- アクセシビリティ向上のためのガイドライン整備や開発支援
- フロントエンド開発における共通ルールセットの整備や標準の策定
- 情報発信や知見共有

取り組みの紹介

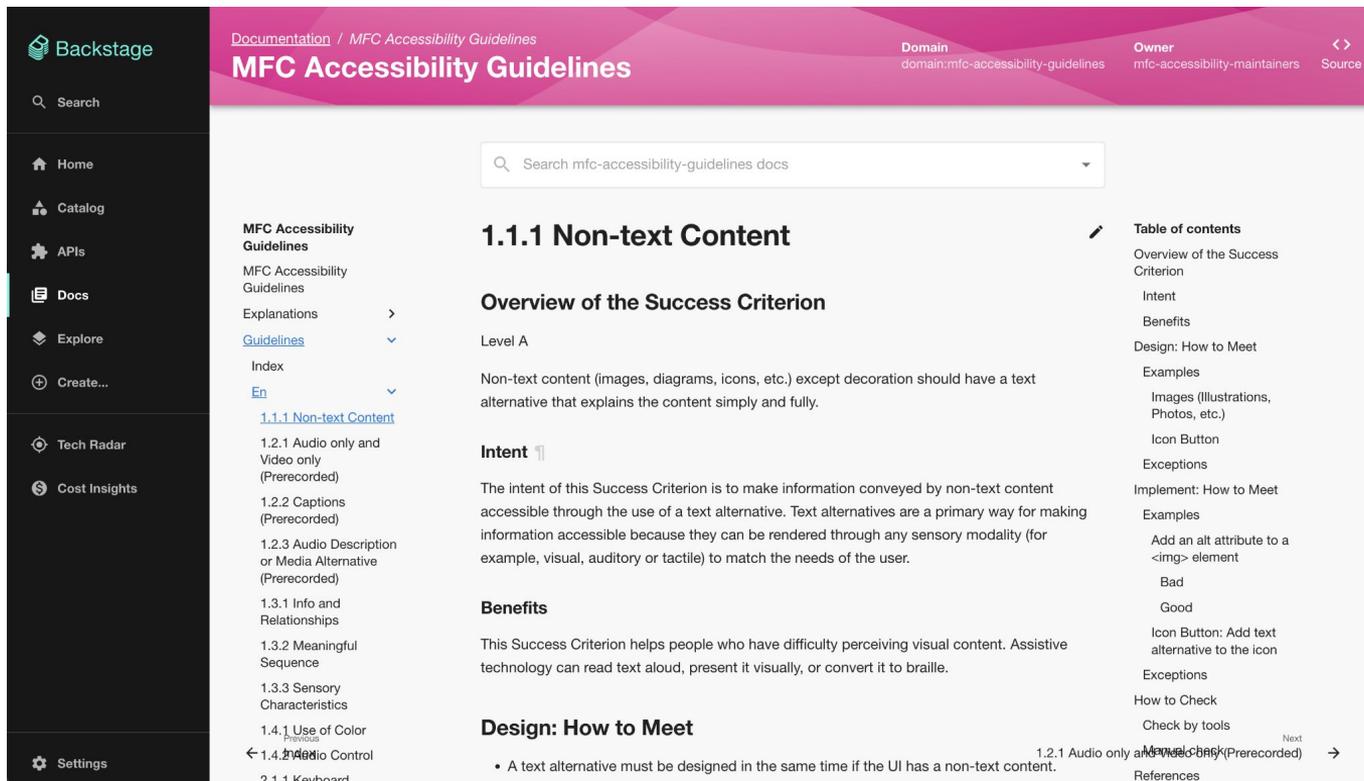


アクセシビリティガイドラインの作成・整備

マネーフォワード クラウドのWebアプリケーションやLP向けの アクセシビリティガイドライン

- WCAG 2.2 Level Aの31基準に対応した内容
- デザイナー、QAと共同で作成し、各基準においてデザイン・実装・チェックのそれぞれで確認すべきポイントを記載

社内のBackstage環境にて公開



The screenshot shows the Backstage documentation interface. On the left is a dark sidebar with navigation options: Home, Catalog, APIs, Docs (highlighted), Explore, Create..., Tech Radar, and Cost Insights. The main content area has a pink header with 'Documentation / MFC Accessibility Guidelines' and 'MFC Accessibility Guidelines'. Below the header is a search bar. The left sidebar of the main content lists 'MFC Accessibility Guidelines' with sub-items: Explanations, Guidelines (expanded), Index, and En (expanded). Under 'En', '1.1.1 Non-text Content' is selected. The main content area displays the '1.1.1 Non-text Content' page, including sections for 'Overview of the Success Criterion', 'Intent', 'Benefits', and 'Design: How to Meet'. A right sidebar contains a 'Table of contents' with links to various sections. At the bottom, a breadcrumb trail shows '1.2.1 Audio only and Video only (Prerecorded) > 1.1.1 Non-text Content > 1.1.1.1 Audio Control > 2.1.1 Keyboard'.

今年4月に施行された改正障害者差別解消法による合理的配慮の義務化によって予測される問い合わせや要望に対応する環境を整備していくため

- 自社の製品群の課題や現状のアクセシビリティのレベルに合わせたものを定義したかった
 - エンジニア組織の公用語が英語になる影響で、易しい英語で書かれたものが必要だったという事情もある
- WCAGや他社のガイドラインを参考にしながら、自分たちのプロダクトの状況と照らし合わせて、取り組むべきポイントを見定めていくため
 - とにかく何からやれば良いのか分からない状況だった
 - 建設的な対話が行えるようなプロセスの整備も必要な一方で、核となる判断基準も自社でしっかり理解しておく必要がある
 - まずはデザイン、実装、QAの各領域の代表者がアクセシビリティに関する知見を身につけてそれぞれに還元していく目的もあった

実際にプロダクトのアクセシビリティ改善に対して使ってみる段階

- チェックリストや各種ツールの使い方などのドキュメントを拡充
- 人事労務系のプロダクトチームに協力してもらい、継続的な改善を行うプロセスを模索中
- **今のところあまり上手くワークできていない...**
 - プロジェクトメンバーの異動
 - プロダクトチームとの協業が想定していた距離感で上手くいかなかった
 - そもそも横断組織側も知見が足りていない
 - etc.

アクセシビリティ委員会の活動

Chief Design Officer (CDO)主導で発足された、開発をはじめCSや広報、法務、人事のメンバーも含めた全社組織

目的

- 会社におけるアクセシビリティ向上の位置付けを明確にすること
- 合理的配慮の提供に関する最終判断を行うこと
- アクセシビリティ向上の社内浸透を推進すること

- アクセシビリティステートメントの策定
- 社内の意識向上に向けた施策
 - 社内でこれまで行われてきたアクセシビリティ向上に関する取り組みの共有
 - アクセシビリティを向上していく上でのマインドセットの共有
- CSなどで問い合わせ内容の対応に迷った時の相談先
- 全社研修の実施
 - 半期ごとに実施している全社コンプライアンス研修にアクセシビリティに関する項目を追加

共通UIライブラリの開発

デザイン室が策定を進めているプロダクトのUIデザインに関する標準があり、それらに準拠した実装用のUIライブラリをベトナム拠点と共に開発中

デザイン標準の時点でアクセシビリティを意識して継続的に改善している

- アイコン、デザイントークン、コンポーネントの3パッケージから構成
 - コンポーネントはReact製
 - アイコンやデザイントークンはReact製ではないプロダクトでも利用可能
- MFC Accessibility Guidelinesに基づいて設計・開発
- ベトナム拠点との共同開発

- > **Button**
- > Checkbox
- > DropdownMenu
- > FocusIndicator
- > GlobalHeader
- > Heading
- > IconButton
- > Menu
- > Radio
- > SectionMessage
- > TextLink
- > Typography

Button

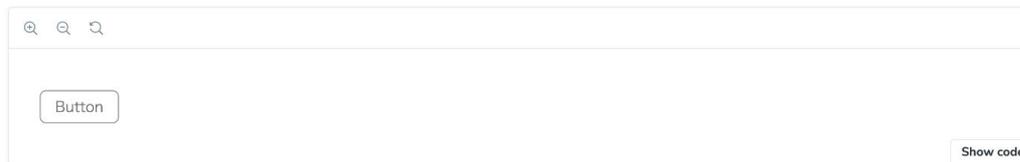
The general-purpose Button component.

References:

- [RC-#MFC:Button v2.0.0 – Figma](#)

This component switches the variants of looks depends on the props: size, priority, destructive, disabled, leftIcon, isDropdownTrigger.

- Also extends the props of `<button>` element.



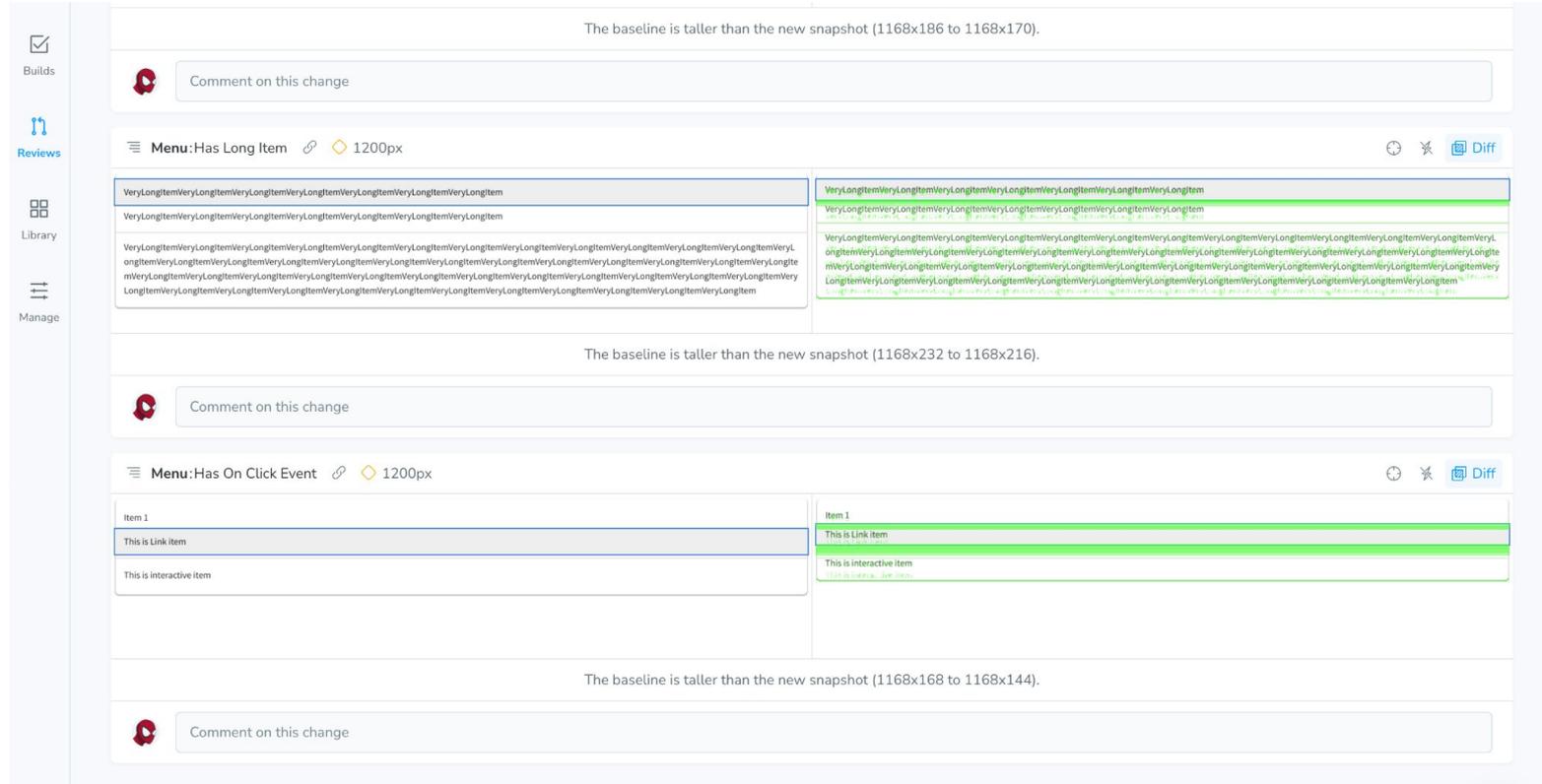
Name	Description	Default	Control	
children	The content of the button. It should be only a string value. <code>string & ReactNode</code>	-	<input type="text" value="Button"/>	
size	The size of the button. <code>"small" "medium" "large"</code>	<code>"medium"</code>	<input type="radio"/> small <input checked="" type="radio"/> medium <input type="radio"/> large	
priority	The priority of the button. The style of the button will be changed to indicate the priority. <code>"primary" "secondary" "tertiary"</code>	<code>"secondary"</code>	<input type="radio"/> primary <input checked="" type="radio"/> secondary <input type="radio"/> tertiary	

ユニットテストやインタラクションテストに加えて、[Chromatic](#)を使ったVisual Regression Testingを実施

- Pull RequestごとにStorybook (コンポーネントカタログ)のpublishを行い、コンポーネントの描画差分や実際の挙動を確認

UIデザインのレビューやアクセシビリティの手動チェックが行いやすくなる仕組み

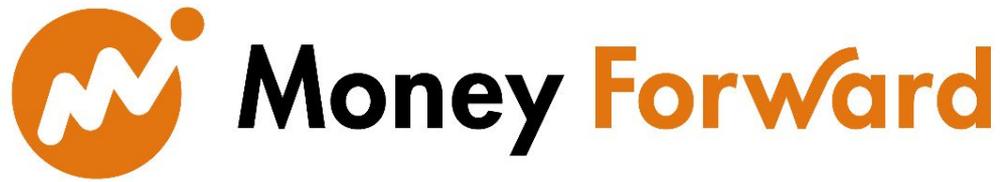
Chromaticで描画差分を検出している様子



The screenshot displays the Chromatic interface with three diff views. On the left is a sidebar with icons for Builds, Reviews, Library, and Manage. Each diff view includes a message: "The baseline is taller than the new snapshot (1168x186 to 1168x170).", "The baseline is taller than the new snapshot (1168x232 to 1168x216).", and "The baseline is taller than the new snapshot (1168x168 to 1168x144).". Each view also has a "Comment on this change" field and a "Menu" header with a link icon and "1200px". The diff views show two columns: the left column shows the baseline (grey) and the right column shows the new snapshot (green). The first diff view shows a menu with a long item. The second diff view shows a menu with a click event. The third diff view shows a menu with a link item and an interactive item.

- 多様な技術スタックへの対応(特にVue)
- 自動チェック
- 開発者のスキルアップ
- 多言語化対応
 - 一部プロダクトでは実装されている
 - コンポーネントレベルでの対応が難しい
- etc.

- マネーフォワード クラウドのクラウドのクラウドの開発では、フロントエンドに関する横断的な課題に取り組むチームがアクセシビリティの向上に責務を持って取り組んでいる
- 現在はWCAG 2.2 Level Aに基づくガイドラインを作成し、実際にクラウドのアクセシビリティを改善していくプロセスの検証中（上手くいっていないので立て直し中）
- 一方でデザイン組織や海外拠点と協力して共通UIライブラリの開発も進めており、製品群の一貫性や併用体験の向上と共に一定のアクセシビリティの向上も目指している



Money Forward